

## 人事異動は労働条件 「希望と納得」で進めることが重要

いちばん大事なこと 希望をはっきり書き、校長に伝えること。おかしい、不当だと感じたら、組合に相談してください

クラス担任や校務分掌の関係で、若年(3年)・永年(8年)の基準を超えても、校長が校内事情から判断して留任させる場合がある。

「異動の考え方」には、希望校や、介護・育児、病気、別居解消、遠距離通勤解消など、個人的な事情を自由に書くことができる。

希望外の地区や学校を打診されたときは、はっきりと意思表示をしましょう。

- 「希望外ですのでお断りしてください」
  - ×「わかりました」「承っておきます」
- ⇒あいまいに返事をするとう納得と見なされます！

令和2年度異動調査書

※すべて、令和2年3月31日現在のものを記入し、10月31日(木)までに直接校長へ提出してください。全員提出です。

職員番号	職名	氏名	性別( )年( )歳
異動希望	有 無 ※○で囲む。「無」の欄は記入はここまで。		
担当教科	専門科目(科目)( )		
勤務分掌	担当任( ) 学年担任・部主任	部	
出身大学(大卒時)	大学	学部	学科
職員給与等の種類(上位等)			
資格・特技 他			
職 歴	勤続年数(現在校 年)(合計 年)		
	1 期城済み	2 地域済み	3 地域済み
	1 地区(済・未)	2 (A・D・AB)済み	
	① 年	② 年	③ 年
	④ 年	⑤ 年	⑥ 年
	⑦ 年	⑧ 年	⑨ 年
	⑩ 年	⑪ 年	⑫ 年
	主任等の経験		
異動希望	順 位	地 区	種 別
	1		1・II管・II専
	2		1・II管・II専
	3		1・II管・II専
異動の考え方			
生活実態	世帯別	現住所	世帯別

勤務校には最低3年の勤務をすることになっていますが、特別な事情があれば、例外的に2年で異動が認められる場合がある。

「希望地区」に、地区の中より小さな地域を書いても良い。  
 ex.福島市、郡山市

### 人事異動の日程

- 11月あたま 校長による県への報告
- 12月初旬～1月 希望外の異動の場合、打診あるかも
- 2月上旬 内々示
- 3月上旬 内示
- 3月下旬 人事異動発表

12月～1月頃、校長に「私の人事異動どうなっていますか？」と聞いてみましょう！

ホームページをリニューアル。ぜひのぞいてみてください。

<https://fhtu.jimdo.com> (URL 直接入力か、

QRコードで)

ホームページにつながります→



# いっしょに考えてみませんか 高校統廃合問題 ～教育の機会均等・持続可能な地域のあり方をめぐって～

私たち福島県立高等学校教職員組合は他の教育関係団体であるふくしま民主教育研究センター、福島県民間教育研究団体協議会とともに、**ふくしまの地域と高校を考える会**をつくり、高校統廃合問題についての問題点を研究し、特に反対の運動をする地域の方々との交流を目指しています。これまで、シンポジウムと2回の運動交流集会（最近では10月2日）を行ってきました。組合では、独自に県教委の統廃合計画への見解を示しています（ホームページ参照）。

## （ノリ）シシシ… 県教委の統廃合計画の内容 （ゝ ; ω ; ）ウウウ

県教委は2019年2月8日、「県立高等学校改革前期実施計画」を公表し、2019年から2023年の5年間で、特定の県立高校の片方を一方に統合する形で25校を13校に統合・再編し、分校の2校を募集停止にして14校を減ず計画を示しています。

具体的には、では、梁川・保原、二本松工業・安達東、須賀川・長沼、白河実業・塙工業（白河実業の一部を修明に再編）、喜多方・喜多方東、大沼・坂下、耶麻農業・会津農林、田島・南会津、湯本・遠野、小名浜・いわき海星、相馬東・新地、保原・福島中央（定時制）の統合校の設置、安積高校御館校、修明高校鮫川校の募集停止を示し、これらを5年間で行うとしており、川俣、猪苗代、只見の3校については1学級での本校設置を認め、存続させるとしています。



この背景には、実は少子高齢化だけでなく . . .

2014年に総務省が発表した「公共施設等総合管理計画」に基づいて、自治体に求めた公共施設削減計画が背景にあるようです。

県教委に対して、どういう削減ができるか照会が来たわけです。2017年3月に提出された福島県の公共施設等総合管理計画では、県教委は、「県立高等学校改革計画」と「県立特別支援学校整備指針」により「統合や廃止の推進方針を公表する、県教委における目標設定を行う」と書かれています。この削減は、保有床面積の削減が求められており、多くの面積を有する学校は標的になりやすいといえます。このあと、学校教育審議会が開かれ、県立高校改革計画（統廃合計画）への審議会答申が出て、前期計画の公表に至っています。

### 10.4 第2回県立高校統廃合問題の運動交流集会より

4校の統廃合対象校の関係者、県議会議員、市町村議会議員、教育関係団体、地域の方、県立高教組の組合員などが参加し、情報交換、意見交換をしました。

毎回感じるのは、県教委の強硬さです。統廃合を計画として示し、計画の撤回は譲りません。他県では例を見ない進め方です。本来、案として示し、地域の合意を得て進められるものです。

地域への説明の際に、教育長からは、統廃合に反対するなら、近隣の別な学校をなくすしかないという趣旨の発言もあったようです。集会の中では、怒りの声が渦巻きました。運動を続けていくには、地域の方々により広くこの問題知ってもらう必要があります。といった意見が出されました。

**統廃合問題は教育の問題だけではない。地域の未来にかかわること。  
解決のカギは国も検討を始めた少人数学級編制の実現に！**